

これまで行ってきた活動（原則としてH.13、14年度）に関する報告書

1) 活動の背景

北陸の歴史文化都市「金沢」の都心付近に位置する長町・長土堀地区は、世界都市を目指す金沢の旧市街地主要部を構成する中で、まちの魅力を一層凝縮したような重要地区となっている。しかし近年は、都心の空洞化や少子高齢化が著しく、伝統行事の開催は減り、近隣の互助関係も希薄になって、持続的な都心居住に依存した伝統都市の生活感あふれる健全な都心の形成や経営も危ぶまれる状況に至っている。こうした閉塞状況を打破し、地域住民の自主運営による地域理解と住民主体のまちづくり実践に貢献するような、ふるさとまちづくり学習自主運営講座の開催、まちづくりに関するワークショップや実践諸活動、住民意向調査等のまちづくりに関する研究調査活動など、を行っている。

近い将来には、NPO法人としての正式発足も目指している。金沢市からも「地区住民自身による自主的運営によって継続している希少なまちづくり住民組織」へと育ってきていることから、その動向に対する注目や期待もより一層大きくなっている。金沢市では、平成15年度より中心市街地において全国的にも画期的といわれる『(仮称)歩けるまちづくり条例』の施行を目指しているが、その先行モデルゾーンとして、「長町・長土堀地区」での通過交通車輛の規制策導入を検討しているが、地区住民の参加や意向集約を円滑におこなうためには、活動協働組織としての「長町まちづくり事務局」の積極的な関与・活躍が、今後強く期待されるものとなる。

2) 活動の経緯と目的

今からおよそ三年前の平成11年(1999年)の11月下旬より、金沢市(長町・長土堀地区)で『市民主導型まちづくり』がスタートした。そのスタート時点では、地元での活動組織はほとんど未組成といえる状況にあった中で、具体的契機として、金沢市からの「長町武家屋敷地区一帯でのまちづくり協定」を締結するための条件調査および、住民意識の高揚を目的としたまちづくりに関する一連の調査事業展開、並びにまちづくり専門家の人材派遣があった。

活動が始められた直接の要因は、金沢市の中心市街地に位置する長町・長土堀地区が、都心の空洞化を大きな地区課題としていたことが挙げられる。これまでの高い土地価格に起因して若年世代から次第次第に郊外に移り住み、人口構成の高齢化が不断に進行するとともに、生鮮食品や日用雑貨品の店舗、医院や銭湯などの日常的に人々が交流していた諸施設の廃業も相次ぎ、残された高齢者にとっても不便で住みにくい生活環境へと徐々に変貌していったのである。

これら都心空洞化の深刻な諸問題に直面し、「日常の暮らし」の視点や「地区住民間の交流」の観点からきめ細かに対処しつつ、都心域の活性化や世代間の交流などを生み出していくため、私達は平成12年4月から、「長町まちづくり事務局の開設」と「地域やまちづくりに関する総合学習講座『長町學事始』や『長町まちづくり學講』の実践」をしている。

私達が活動の基本目標(スローガン)にしているのは、「住民主導のまちづくり活動」の実践・支援・協働(パートナーシップ)、中心市街地での自律型活性化策の立案・啓蒙・誘導、楽しく学び、仲良く実践し、知恵と創造性による持続的地域づくりに貢献、まちづくりの基本は、人と人の信頼関係構築、～急がず、ゆっくり、着実に～、などである。

3) 活動の内容

以下、長町・長土堀地区でのまちづくり活動のこれまで3年間の経緯を整理する。

【1999年】

11～12月頃

・まちづくり活動の開始に当り、金沢市担当職員と地元連合町内会長及び公民館長とで面談。

12月～(翌年)1月

- ・既存団体「長町武家屋敷界隈を愛する会」の会長青木等氏と町会副会長及び公民館副館長などを務める中野成昭氏とが面談し、協働体制づくりについての事前確認協議。

【2000年】

2～3月頃

- ・「長町まちづくり事務局」を長町公民館内に開設するための準備。
- ・「長町まちづくりニュース」を月2回程度発行するための準備。
- ・ふるさと・まちづくり総合学習講座「長町學事始」を月2回程度開講していくための編成準備作業。

4月より

- ・「長町まちづくり事務局」の仮設。
- ・「長町まちづくりニュース」発行。
- ・「長町學事始」をほぼ月2回開講。

9月上旬

- ・「長町まちづくり事務局」を開設。

12月～(翌年)1月

- ・「長町學事始」の講座に変化を持たせるため、「加賀料理実習(兼忘年会)」や中野成昭代表の「一楽旅館」を会場にした出前講座等を開講する。

【2001年】

2～3月頃

- ・「ワークショップ」や「NPO」についての学習・実践を多く導入する。
- ・平成12年度では、計24回の「長町學事始」開講と22号の「長町まちづくりニュース」を発行した。

4月より

- ・「長町學事始」を「(続)長町學事始」と改称して、継続開講する。

6月下旬

- ・能田屋酒店主人を講師に『日本酒を嗜む』講座を開講。(大変好評。)

5～9月

- ・『公開討論会』を交通・用水・景観・都市を各テーマにして、計4回シリーズで継続開催。

10月中旬

- ・講座のワークショップの一環として、『夢みどりいしかわ2001「県民花壇」』に出品参加。

11月中旬

- ・『長町まちづくり憲章』を公表。
- ・石川地域づくり表彰で 優秀賞 を獲得する。

【2002年】

1月下旬

- ・スイス・チューリッヒ大学のハラルド=マイヤー氏に「日本人のスイス・モデル国家論」を講義いただく。(この後、親密な交流が生まれる。)

1～3月頃

- ・(社)金沢青年会議所(地域開発委員会)より、次年度の企画「地域通貨」の流通実験の共同開催を打診。
- ・「長町武家屋敷界隈まちづくりアンケート調査」を実施する
- ・ワークショップ学習として、「長町武家屋敷休憩館」の開館に協力。
- ・「金沢・チューリッヒ友好交流協会」の設立準備を進める。

- ・平成 13 年度では、計 34 回の「(続)長町學事始」開講と計 28 号の「長町まちづくりニュース」を発行。
 - 4 月より
 - ・「(続)長町學事始」を「(続々)長町學事始」と改称して、継続開講する。
 - ・「長町・長土堀地区わいわいウォーク・フェスティバル」を『かなざわ史跡同行会』との共催で、開催する。
 - 4 月下旬
 - ・ワークショップ学習として、「前田土佐守家資料館」の開館に際し、関連委託業務として、『お茶会』開催を金沢市より受諾する。
 - 3 ~ 6 月
 - ・3 ~ 7 月頃、「長町武家屋敷界隈地区」を主対象に「まちづくりビジョン定例懇話会」を継続開催。
 - 5 月下旬
 - ・「周防猿回しの会」代表の民俗学者村崎修二氏の「猿回し公演」を 3 日間連続で開催する。
 - 6 ~ 9 月
 - ・(社)金沢青年会議所と、「長町のまちづくりを考える会」を 4 回に渡り、継続開催する。
 - 7 ~ 9 月
 - ・(社)金沢青年会議所(地域開発委員会)と共同開催で、『長町大福帳(イーネ)』の流通実験を展開する。
 - 10 月下旬
 - ・石川県及び石川県商店街振興組合連合会等の主催による「石川県商業ベンチャー推進事業 2002・ビジネスアイデアコンテスト」において、優秀賞 を獲得する。
 - 11 月中旬
 - ・「ビジネスアイデアコンテスト」での提案企画『長町朝市』(2003 年 4 月以降開催予定)開催準備のため、10 月に訪問を受けた新潟県上越市での「二・七朝市」を 12 日に視察した。
 - 12 月中旬
 - ・「長町まちづくり學 講」として、金沢美術工芸大学環境デザイン専攻の学生と『長町・香林坊界隈への“アートぶれいく・マチへ出る』と題し、長町・香林坊・豎町界隈等での空地を活用した、アートや造形物によるまちづくりの提案を受け、討論した。
 - ・平成 14 年度は、12 月末の段階で、計 20 回の「(続々)長町學事始」の開講と計 10 号の「長町まちづくりニュース」(及び「Danke & あんやと」)を発行した。

【2003 年】

- 1 月中旬
 - ・「長町まちづくり學 講」として、“新春・無礼講(ぶれいく)放談 ~ 似たり、寄りたり、語りたり ~ ”を企画し、第一ノ談をテーマ『金沢 ~ 二十二世紀への都市改造・私論 ~』対談者：熊野盛男 vs 南手骨太で、第二ノ談をテーマ『犀川大橋 ~ 新橋界隈改造論・私論』対談者：小幡謙二 vs 中野成昭、場所：ギャラリー『忙中閑有』犀川大橋 ~ 新橋中程・ソーシャルレジャックビル 2 階、で開催した。
- 2 月
 - ・2 月 10 日に、中心市街活性化への無礼講(ぶれいく)提言企画として、“片町・香林坊・長町の活性化戦略を画策し、提言する”を、柴田克氏(片町商店街店主)と青海康男氏(いしかわ市民活動ネットワークセンター事務局長)とのパフォーマンス・トークセッション in 2003 と題し、テーマ『片町 ~ 香林坊 ~ 長町界隈での“パフォーマンス・アート、景観、そして伝統文化”の今後の融合・展開策を提案する』 ~ 中心商店街賑わい創出や市街地空洞化の克服・

再生にチャレンジ～を、場所：カナザワ・ビズ・カフェ、にて開催した。

- ・2月11日に、香林坊ハーバーにて、石川県商店街活性化フォーラムの共催イベントの一環として、四月以降に開催予定の『長町朝市』の試験開催を実施した。
- ・2月23日に、中心市街活性化への無礼講(ぶれいく)体感企画として、“香林坊のイートサロン (eAT Saion) を探訪し、体感する”～近隣市民として、どこまで「イートサロン」を有効活用できるか～、を開催した。

3月下旬

- ・大学(学生)とのまちづくり交流シリーズ・第2弾企画として、“金沢大学文学部(地理学教室)神谷研究室とのまちづくり交流セッション”を開催した。前半は、神谷浩夫氏(金沢大学教授)と南久則氏(香林坊せせらぎ通りで、一級建築士事務所「結(ゆい)を主宰)をゲストにお招きし、金沢都心のまちづくり全般や魅力ある都心居住のあり方などについて自由に語り、問題提起いただき、後半は、神谷研究室の学生さん(10人が参加)を交え、意見交換を展開した。当日のテーマは『金沢都心のまちづくりと魅力ある都心居住を探る』～“中心市街地の魅力再生と女性・若者・学生の居住意向”からのアプローチ～、とした。

4) 活動の成果

特に動員をかけることを避け、参加したいという志を抱いた人々(地区住民)の自由意志をあくまで尊重した上で、『ふるさとまちづくり学習講座』を継続してきたことから、それらの人々の結束力や協働体制は、予想以上に強いものに育ってきている。それはここ1～2年の間に実践を重ねたいずれの企画行事や共同作業にあっても、常に『同窓の志士』といった頼もしい雰囲気が常に強く漂っていることで確認できる。とりわけ本年度に入り実施しているまちづくりに関する様々な活動に共通して、構成員それぞれの個性や潜在能力を互いに理解し合い、上手く生かし合いながら、絶妙の“チームワーク力”として発揮できる『まちづくり実践集団』へと確かな地歩を固める段階に達している。そうした地道なまちづくり活動の積み重ねは、金沢市など行政の側からもその独自の存在感・存在価値を正当に評価いただける時期に至っている。これまでしばしば見られたような行政に対する陳情団体や圧力団体とは基本的にその資質を異にした、いわば“コミュニティ・シンクタンク”に例えられる機能発揮が、より一層期待されてきている。

今後も行政側にも、また住民側にも偏することのない、純粋に郷里へのこよない愛着を基盤においた、「まちづくり、地域づくりの視座」から、地域のまちづくりに関する様々な調整・企画・提案・実践に果敢にチャレンジしていくことが大いに期待されてこよう。

5) 今後の展開

「長町まちづくり事務局」の運営と『長町まちづくりニュース』(月2号程度)の発行。

「長町學事始」、「長町まちづくり学 講」など、ふるさとまちづくり学習講座(月2回程度)の開講。

流通実験後も地域通貨「長町大福帳(イーネ)」を自主継続(「J C」「iねっと」との協働体制も継続)。

長町・長土堀地内での「地区交通関連“リレー対話集会”」の連続開催(1～3月で10回程度)。

「長町朝市～近郊悠々農家と交流する、採れたて旬々朝市～」の開催(来春4月から開催予定)。

長町地内での「まちづくり協定」や「安心・安全まちづくり」への支援・企画・運用などでの関与。

NPO関連受託事業の実践(例:「公共施設での接客関連業務」、「公共施設や駐車場の管理業務」)。

「かなざわ史跡同行会」との共催事業の継続（例：「地域(歴史)資源の定例探訪会」、「わいわいウォークフェスティバル」など）。

「金沢・チューリッヒ友好交流協会」の事務局運営（機関誌「Danke&あんやと」）の発行も継続）。

まちづくり関連の先進・類似地域への視察・訪問など。

6) 活動のポイント

・活動の人材

スタッフ数 32名〔常勤(16名) / 非常勤(16名)〕

組織構成 代表：中野成昭・副代表：砂川公子、石田正俊・

顧問：平沢静香、他一名・

相談役：東川庄吉、他二名・

“長町學事始”発起人会：内田忠平、他十一名・

“長町學事始”講座開講世話人：所村敬治、他十五名・

事務局長：吉田 洋・事務局員：奥村容子、他一名・

・活動のための資金調達

資金調達については、地区内外の有志からの寄付金、石川県や金沢市からの活動援助金や先進地やフォーラムへの選抜派遣、イベント関連業務の作業請負、まちづくり表彰などに伴う副賞金、加えて日頃から活動交流やネットワーク交流している関連NPOによる事業活動での連携・支援への実費報酬など、が挙げられる。

・活動のネットワーク・支援

対象地域での日常活動で関わりが深い団体としては、任意団体の「長町武家屋敷界隈を愛する会」、NPO活動支援での総合組織である「(特)いしかわ市民活動ネットワークセンター(iねっと)」などが同一地区内にある。更にまちづくりに関する調査研究や事業を協働して開催する諸団体としては、「明日の金沢の交通を考える市民会議(代表:山崎正夫氏)」、「かなざわ史跡同行会(会長:所村敬治氏)」、「かなざわ・まち博開催委員会」、「(社)金沢青年会議所」、「市民芸術村((財)金沢市文化創造財団)」、「香林坊ハーバー」、「金沢商業活性化センター(株)」などが挙げられる。

・その他

平成12年以來の3年近くをかけて、われわれ“長町まちづくり事務局”を中心に地道に培ってきた「まちづくりに関する基礎知識」、「まちづくりに対するセンス」、「まちづくりに係わる実践活動」などを総動員して、いよいよ空洞化の進んだ都心居住地での身近なまちづくりへの具体的提案・企画・調整・実践に果敢にチャレンジし、今後の地区活性化や魅力付けに、いよいよ具体的貢献をすべき段階に至っている。これまでに培ったNPO的理念やワークショップ手法を積極的に導入し、これまでの行政主導體制では果たしきれないであろうよりきめ細かな『まちづくりケア』や『まちづくり誘導』、『まちづくり協働』などの実践活動に果敢にチャレンジし、『住民主導のまちづくり』に向けた独自の存在感を展開・発揮していくことが強く期待されている。